

単元名 4 心の動き ー大人になれなかった弟たちに……

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 作者の思いに触れ、自分のものの見方や考え方を広げることができる。
 (2) 登場人物の置かれた状況とそのときの行動、様子から、心情や生き方を捉えることができる。

文脈の中で言葉の意味を捉え、表現の工夫を味わうことができる。
 (3) 作品の背景にある時代状況や、家族のあり方などを通して、作品に興味をもとうとする。

標準的な展開例

10210201_001

【準備等】国語指導CD、再生機、国語辞典、原稿用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 作品の時代状況を捉え、読み取りの際の着眼点を確認する。 ○太平洋戦争について知っていることを出し合う。</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。 ★作品の背景を捉え、全文を通読し、感想を書こう。 ○全文を読み味わう。</p> <p>○初読の感想を書く。また、内容についての感想に加え、表現の特徴についても指摘する。</p> <p>○感想や表現の特徴などを発表し合う。</p> <p>○新出漢字を学習し、注意する語句を調べる。</p> <p>2 状況とともに登場人物の行動や様子、表現を追い、心情を捉える。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★「悲しみ」をキーワードに、登場人物の心情に迫ろう。 ○登場人物の置かれた状況と、行動や様子をまとめる。</p> <p>○登場人物の「悲しみ」を感じる表現を見つける。</p> <p>○「悲しみ」を感じる表現を発表し合う。</p> <p>3 登場人物の行動や様子、表現から生き方を押さえ、作者</p>	<p>・太平洋戦争について、書籍や映像資料、生徒が居住する地域の様子、戦争体験者のインタビューなどに触れ、戦時中の状況についてイメージをもてるようにする。 ・「目標」(p.96)を確認させる。</p> <p>・作品のイメージを大切にするために、教師が範読するか、国語指導CDを活用する。 ・特殊な状況を背景とした作品は、時代状況を押さえ、登場人物に与えた影響を考えながら読むよう確認したい。 ・内容とともに表現にも着目して感想を書くように指示する。 ・初読の感想に目を通し、作品に対する興味・関心を把握しておき、次時からの授業の中で紹介し、生かしていく。 【評】初読の感想を書く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・内容についての感想を、登場人物ごとの立場や思いで整理しておきたい。また「悲しみ」や「強さ」という言葉に注目し、次時につなげたい。 ・表現の特徴については、この段階では、指摘が出ないことも予想される。ここでは、学習をつなげるために、次の点について触れておく。 ①文が短い。 ②「ヒロユキ」などが、片仮名で書かれている。 ③「……」や「ー」を用いている。 ④敬体で書かれている。 ⑤倒置法が多い。 ⑥「小さな小さな」など繰り返しの表現が多い。 ・国語辞典を活用するとよい。</p> <p>・「母、僕、弟、その他の人々」で「疎開前、疎開中、弟の死」程度の区切り方で考えていくとよい。 ・個人で進めることもできるが、活動時間を設定し、4名程度のグループで活動することで活動時間を統一してもよい。 ・全体を通して「悲しみ」や「強さ」を表す表現が随所に見られるので、ここでは、「悲しみ」「強さ」をキーワードとして着目した授業展開を示す。 ・それぞれの登場人物が戦争という状況の中でどうにもならない「悲しみ」を抱いていることに気付かせたい。 ・表現の特徴は、前時で挙げた項目や、「描写に着目する」(p.104)の課題を適宜参照させたい。 【評】「悲しみ」を感じる表現を探す活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・他の人の考えと自分の考えとを比較して聞かせる。</p>

の思いを捉える。

○ 本時の学習課題をつかむ。

★ 母の生き方と作者の伝えたかったことを読み取ろう。

○ 戦争という状況においても貫かれた、母の人間としての「強さ」や「美しさ」を読み取る。

○ 最後の一文から作者の伝えたかったことを考える。

4 作品や作者の思いに対する自分の思いを表現し、ものの見方や考え方を広げる。

○ 題名「大人になれなかった弟たちに……」に込められた作者の思いを読み取る。

○ 本時の学習課題をつかむ。

★ 作品や作者の思いに対する自分の思いを表現しよう。

○ 作品や作者の思いに対する自分の思いを書き記す。

・ 母について「強い顔」(p.99)、「美しい顔」(p.99)と表現されていることを踏まえ、母の行動や様子から、子どもに対する思いや人間としての尊厳について考えさせたい。

・ 全編から捉えさせる。

・ 母の様子が、「僕」の視点から語られていることを踏まえ、「僕」の母への思いにも触れる。

・ 「僕はひもじかったことと、弟の死は一生忘れません。」(p.103)に着目させる。

・ 「ひもじさ」「弟の死」をもたらしたものが戦争であることを捉え、その上で「一生忘れません」という表現に表れた作者の思いを考えさせる。

【評】最後の一文から、作者の戦争に対する憤りや平和への願いを読み取る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

・ 題名に関することを最後に扱い、まとめにつなげていく。

・ この作品が、作者の弟だけに向けて書かれたものではないことに気付かせる。

・ この作品が、戦争の犠牲者に捧げられた作品であることを理解させたい。その人たちに対する作者の決意や願いなどを考えさせたい。

・ ノートや原稿用紙などに感想や思いを書かせる。

・ 「自分にとっての家族」などの題を与えてもよい。

・ 教師の感想や思いなども伝えて、学習のまとめとしたい。

【評】自分の思いを書き記す活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

この単元では、物語と記録文を主に「展開」という観点から読み取することを目的としている。学習指導要領解説にあるように、「構成」とは文章の組み立てなどを静的に捉えたもので、「展開」とは、人物の心情や事実の変化に沿って動的に捉えたものである。「構成」を前提としつつ「展開」に注意し、書き手の思考の流れを生き生きと読み取らせたい。

また、「星の花が降るころに」は、友情の尊さを理解する内容となっている。これは道徳のBー(8)友情・信頼にあたり、これを機会に、互いに励まし合い、高め合う友情について考えさせたい。「大人になれなかった弟たちに……」は、生命の尊さを理解し、家族の愛情の深さに気付く内容となっている。これはDー(19)生命の尊重と、Cー(14)家族愛にあたり、かけがえのない生命を精いっぱい生きることの尊さと、家族の愛情の深さや家族の絆を深めようとする気持ちに気付かせたい。